

## 2014年度の事業計画

### ◆はじめに

市民、団体、有識者、企業、行政、学校等多様な主体が幅広く連携し、環境保全活動を協働して展開する基盤としてネットワークの拡大を図り、持続可能で豊かな社会の構築に向け、様々な場における行動と参画・協働を推進します。

また、ESD関連事業やIPCC第5次評価報告書等の啓発活動をはじめ、事務局体制に見合う事業の見直しや整理もすすめ、公益財団法人移行に伴う新制度に沿った組織運営を図ります。

### 1. ネットワーク・広報・研究・助成事業

#### ①助成事業

- ・県内の環境団体の育成と環境問題の研究に対して財政的な支援を図ります。
- ・「助成活動報告会」は、前年度助成全団体による活動報告と、意見交流を行います。

#### ②ホタル団体交流会・ホタルフォーラム

- ・多くのホタルに関する取り組みを実施している団体や個人の参加のもと交流をすすめ、環境保全活動の前進を図ります。
- ・ホタル団体交流会を年3回開催します。また、内容については検討をすすめます。
- ・ホタルフォーラムを倉敷市で、酒津のホタルを親しむ会等の協力のもと開催します。

#### ③. ニュース、ホームページ、メールニュースの発行

- ・各媒体の特徴を活かし、多様な情報発信、情報共有、各主体の交流の促進と、事業への参加や協力を促します。
- ・ニュースは季刊発行とし、専門家、団体、市民、行政関係者、企業など様々な観点、立場から多様な考え方などの情報提供、活動紹介をすすめ、読者が複眼的に物事を捉える機会をつくることを目的とします。
- ・メールニュースは月2回を基本に発行し、タイムリーな情報発信をすすめます。
- ・「財団紹介パンフレット」や「事業・決算報告並びに事業計画・予算書」を作成し、広く活動の理解につなげ、それらを活用した会員獲得にも取り組みます。

#### ④. 環境家計簿活動の普及

- ・環境家計簿の普及を通じ、家庭部門のCO<sub>2</sub>排出削減をすすめ、環境に配慮した暮らしをめざす活動をすすめます。
- ・引き続き、岡山市と協働で「環境家計簿レポート」、「環境家計簿カレンダー」を発行し啓

発につなげます。

#### ⑤. 自然環境の研究・交流

- ・「自然環境部会」にて、自然環境に関する研究・交流をすすめます。また、おかやま環境シンポジウムの開催に向け、具体化を図ります。
- ・「旭川流域部会」を新設し、流域の研究・交流、体験プログラムの企画等をすすめます。

#### ⑥. 行政、他団体等とのつながり

- ・行政等との日常的なコミュニケーションを強め、委員会などの場で役割を発揮します。
- ・水環境フォーラムを（公社）日本水環境学会中国・四国支部岡山地域分科会、岡山理科大学環境教育地域支援研究会と共催で開催します。
- ・ESD プレ企画として、岡山市と生活協同組合おかやまコープとの共催で、シンポジウムを開催します。
- ・「ESDアカデミア会議in岡山」と共催で、植樹体験学習と国際フォーラムを開催します。

### 2. 啓発事業

#### ①. 市民のための環境講座

- ・環境問題を正しく理解し、意識啓発や行動を促し、社会全体の持続可能性を形づくる基本概念を学ぶことを目的に開講します。
- ・重要と思われる課題や、これからの社会はどうあるべきかを考える機会として、市民により良い情報を発信できるよう、多数の参加をめざし、テーマ設定します。

#### ②. 体験プログラム

- ・自然にふれあい、親しみながら、人間と環境との関わりや、豊かな環境とその恵みを大切に思う心をはぐくみ、命の大切さを学び、自然環境や普段の暮らしを考えるきっかけをつくることを目的に開催します。
- ・次世代を担う子どもたちが、体験や実践をとおし、関心を持ち、理解を深め、課題を見つけ、行動するという流れを大切に具体化します。
- ・他団体等との連携、協働をすすめ具体化します。

### 3. 法人管理・会計等

#### ①. 公益財団法人の組織運営

制度に沿った円滑な組織運営を図り、管理業務の効率化をすすめます。

#### ②. 予算

予算は前期の正味財産額相当分を、公益目的事業予算に加算します。